

大手前大学 大学院
国際看護学研究科

2023年4月

開設記念
講演会&シンポジウム

2022年 11月26日(土)
13:30~16:00

会場 大手前大学 大阪大手前キャンパス C棟
〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前2-1-88

定員 会場参加 90名 オンライン参加 300名

Global Nursing

講演会

看護政策の動向と看護職の未来

— グローバル社会でのキャリア形成を考える —

演者



高橋 弘枝 教授

認定看護管理者、公益社団法人大阪府看護協会前会長

今回の講演では、20年間にわたり、時代の変化に対応できる看護管理者への教育・支援活動をはじめ、制度改革や政策提言を行いながら、看護専門職のジェネラリストやスペシャリストの育成にも精力的に関わってきた。これらの活動から得た示唆と看護職としての今後の展望について報告する。

Profile

大阪大学医学部附属助産婦学校卒業後、旧大阪厚生年金病院に就職。その後、改組によりJCHO大阪病院看護部長、JCHO本部企画経営部医療副部長を経て、2016年6月より公益社団法人大阪府看護協会会長・公益社団法人日本看護協会地区理事に就任。在任中には大阪府医療審議会委員、大阪府防災会議委員、大阪府外国人医療対策会議委員、大阪府新型コロナウイルス感染症対策委員、日本WHO協会理事等多数歴任。現在も一般社団法人日本看護管理学会評議員、大阪市男女共同参画審議会委員、大阪商工会議所人材育成委員会・ライフサイエンス振興委員会委員等に就いている。日本看護協会会長賞、ひまわり褒章、優良看護職員厚生労働大臣表彰等、多数受賞。

座長

山本 純子 教授

大阪府立羽曳野病院(現:大阪羽曳野医療センター)で20年間の病棟看護師を経て、訪問看護ステーションで活動し、看護学(博士)を取得、太成学院大学、人間環境大学を経て、現職:大手前大学国際看護学部学科主任。専門は、高齢者看護学、在宅看護学、エンドオブライフケア看護学。著書(共同執筆)「エンドオブライフケア看護学-基礎と実践」発行:ヌーベルヒロワフなど。



鈴木 江三子 教授

大手前大学 国際看護学研究科長(就任予定)

Profile

岡山大学附属助産師学校卒業。助産師として15年間勤務後渡英。英国University of West London(元テムズバレー大学)大学院助産学修士課程修了。修士(助産学)。大阪大学大学院医学系研究科博士後期課程修了。博士(保健学)。川崎医療福祉大学、兵庫医療大学(現:兵庫医科大学)教授を経て2019年より国際看護学部長。主な研究は超音波診断の導入要因と妊婦健診の変容による妊婦の身体感覚、児童虐待、女性受刑者がもつ未成年期の行動特徴と養育能力を明らかにし、多様な背景を有する女性への子育て支援を探索。また、アフリカや欧米諸国等において母子の健康支援や子どもの人権を守る研究等も実施。Otemae University Institute of Global Nursing (IGN) 顧問、International Learning Collaborationでは諸外国の看護職の研究者と共に対象が求める看護に関する国際看護研究を実施。研究や助産師としての功績について受賞歴多数。

参加
申し込み

【Webサイト】
<https://www.otemae.ac.jp/>

または右記のQRコードよりお申し込みください。



お問い合わせ

大阪大手前キャンパス
新研究科設置準備室(平日9時~17時)

TEL.06-6941-7036

シンポジウム

国際看護学研究科におけるグローバル社会に対応する
専門職教育の展望

シンポジスト



西村 直子 教授

看護実践科学分野

質の高い看護を探究する
チカラ

医療技術の進歩、消費者の自己決定の促進により我々専門職が遭遇する課題は複雑化している。多様なニーズにこたえるために、世界中で発表される英語論文から最新のエビデンスを読みこみ、自己の看護をみつめるチカラが求められる。さらに自ら探究した看護を世界に向けて発信するチカラを持つ国際社会に貢献する人材について考える。

Profile

国立循環器病センターで勤務後、渡豪し学士を取得。メルボルンのモナッシュメディカルセンターでNICUに勤務。帰国後保健学博士を取得。鳥取大学、川崎医療福祉大学を経て現職。専門領域は小児看護学。国際看護研究所所長。



白井 文恵 教授

公衆衛生看護実践科学分野

社会包摂の課題解決

少子超高齢多死社会や健康危機に加え、多様な国籍を有する外国人が暮らす地域社会における対人サービスを通して、個人、家族、集団や地域の健康課題の本質を多角的に分析し、SDGsの理念のひとつである包摂社会を希求し、QOLの探求と社会変革に向けて取り組む保健師のあり方について考える。

Profile

千葉大学大学院看護学研究科修了後、愛知県での保健師勤務を経て、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻に教員として勤務、医学博士号を取得。専門領域は、公衆衛生看護学、研究分野は、感染看護、在宅での感染予防。



嶋澤 恭子 教授

助産実践科学分野

多様性への理解を内包した
助産実践のチカラ

国内外の健康格差の改善において、母子保健の専門職としての助産師の役割は大きい。その基本姿勢として女性や子ども、その家族のもつ多様性への理解が求められる。多様性への理解から他者への尊重が育まれ、これらが自律した助産実践のチカラへとつながる。国内外の現場のリアルを知り、グローバル社会に対応する助産師の在り方、助産実践のチカラについて考える。

Profile

大学病院、民間病院で助産師勤務ののち青年海外協力隊としてラオスで活動。帰国後、大学院で文化人類学を専攻。ラオス国境の村などアジア各地でフィールドワークを行う。神戸市看護大学を経て現職。

座長

藤井 ひろみ 教授

京都大学(旧)医療短期大学部専攻科にて助産学を学び、助産師として活動後、看護学博士号を取得。神戸市看護大学准教授、慶應義塾大学教授を経て、現職。専門は助産学・母性看護学、ジェンダー学。著書「レスビアンヘルスと看護研究」(晃洋書房)など。

PROGRAM

○理事長挨拶

○学長挨拶

○国際看護学研究科の開設に向けて

鈴木国際看護学研究科長(就任予定)・教授

○記念講演会

「看護政策の動向と看護職の未来

-グローバル社会でのキャリア形成を考える-

〈演者〉高橋弘枝教授・前大阪府看護協会長 〈座長〉山本純子教授

○シンポジウム

「テーマ：国際看護学研究科におけるグローバル社会に対応する
専門職教育の展望」

〈シンポジスト〉看護実践科学分野：西村直子教授

公衆衛生看護実践科学分野：白井文恵教授

助産実践科学分野：嶋澤恭子教授

〈座長〉藤井ひろみ教授

○閉会挨拶 大橋一友総長補佐

ACCESS

大手前大学
大阪大手前キャンパス C棟

〒540-0008
大阪府大阪市中央区大手前2-1-88

3路線3駅から
アクセス可能

地下鉄 天満橋駅
京阪 天満橋駅

徒歩約2~5分

JR東西線 大阪城北詰駅 徒歩約13分

主要駅から
最寄り駅までの
所要時間

・大阪(東梅田)から 約4分
・京橋から 約5分
・なんばから 約10分
・天王寺から 約11分
・大阪上本町から 約12分

※時間帯や乗り継ぎ等により異なる場合があります。

